

子どもの心の診療拠点病院事業 有識者会議 資料

国立成育医療研究センター
奥山 眞紀子

調査方法

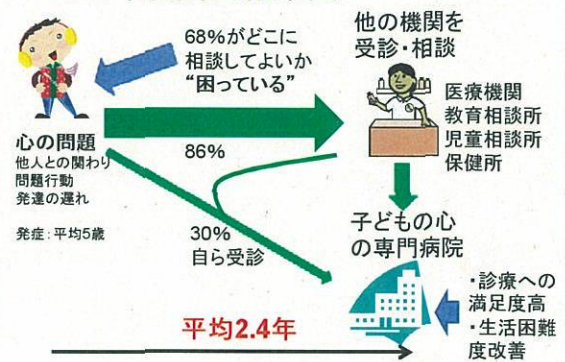
- 平成20年9月から平成21年2月までの間に対象医療機関を受診した初診・再診(再診は9月のみ)の患者に、診察を担当した医師から研究への参加を依頼し、参加を募った。
- 平成22年1～3月までの間に同医療機関を初診した患者さんに同様の調査を行った。

対象

- 全国における子どもの心の問題に関する専門病院(N=16)を受診した患者およびその家族に対し、質問紙により調査する。

宮城県こども総合センター	国立成育医療センター	あいち小児保健医療総合センター	香川小児病院
国立国際医療センター-国府台病院	神奈川県立こども医療センター	三重県立小児心療センター-あすなる学園	医療法人 翠皇会 松田病院
埼玉県立小児医療センター	静岡県立こども病院	大阪府立精神医療センター-松心園	国立病院機構鳥取医療センター
東京都立梅ヶ丘病院	信州大学医学部附属病院	神戸大学医学部附属病院	肥前精神医療センター

H21年度調査結果図

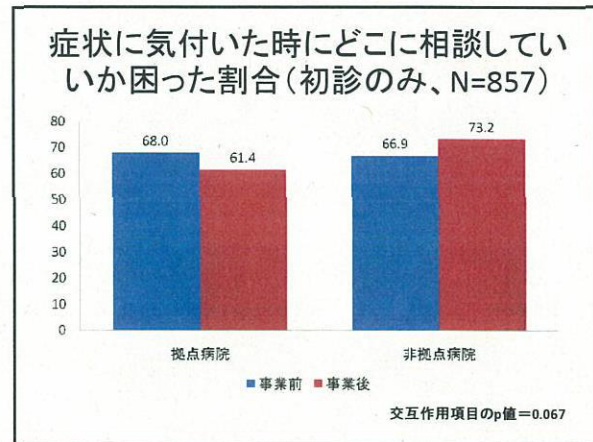
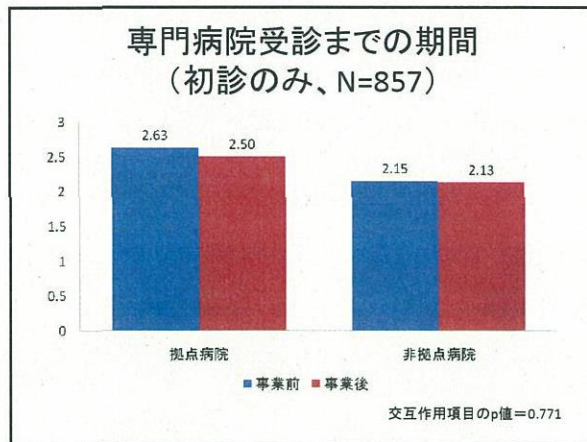
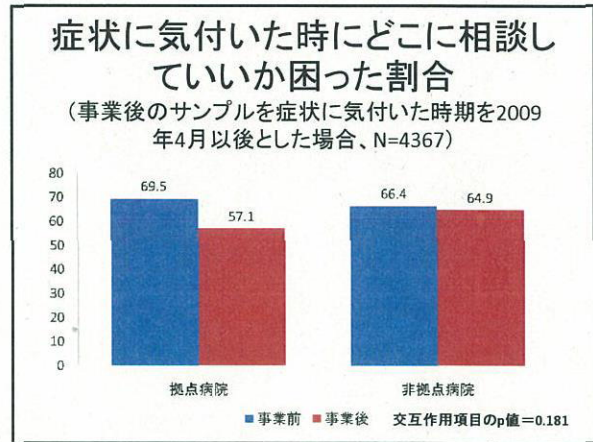
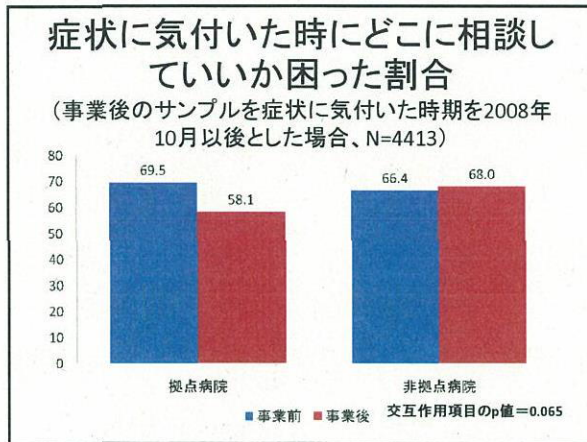
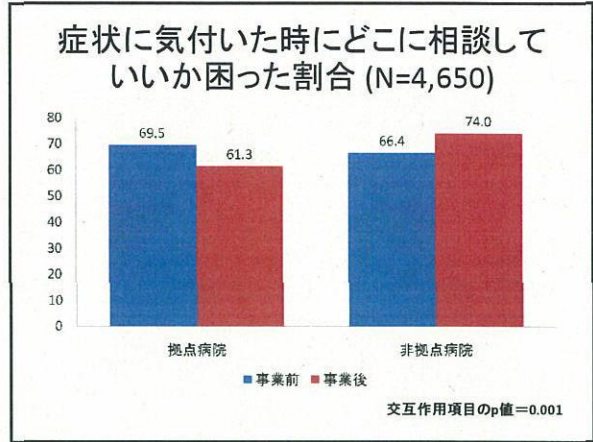
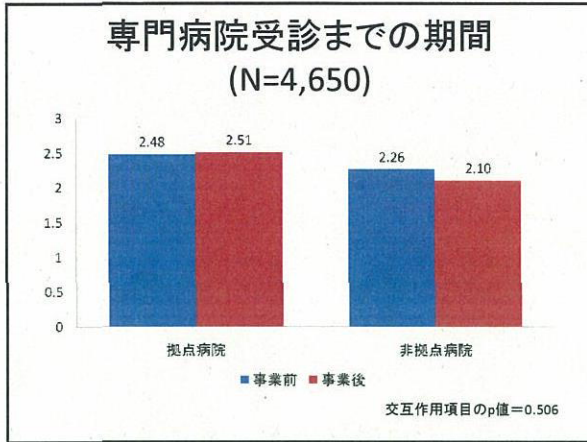


子どもの心の診療拠点病院事業評価

- 子どもの心の診療が円滑に行われることを目的に展開されている「子どもの心の診療拠点病院機構推進事業」の中間評価を行う。
- 拠点病院となった専門病院(N=8)とそうでない専門病院(N=8)において、事業の実施前(平成20年9月～平成21年3月、N=4,323)および実施後(平成22年1～3月、N=433)における①専門病院受診までの期間、②どこに相談すればよいかどの程度困ったか、について比較する。

今回の分析概要

- 子どもの心の診療が円滑に行われることを目的に展開されている「子どもの心の診療拠点病院機構推進事業」の中間評価を行う。
- 拠点病院となった専門病院(N=8)とそうでない専門病院(N=8)において、事業の実施前(平成20年9月～平成21年3月、N=4,323)および実施後(平成22年1～3月、N=433)における①専門病院受診までの期間、②どこに相談すればよいかどの程度困ったか、について比較する。



結論

- 子どもの心の拠点事業は、症状に気付いてから専門機関を受診するまでの期間を短くする効果はなかった。
- しかし、症状に気付いた時にどこに相談してよいか困っている人の割合は有意に低下させていた。
- 子どもの心の拠点事業は、症状に気付いてからの円滑な相談を促している可能性が示唆された。

自閉症スペクトラム障害における専門病院診療までの経緯に与える要因についての解析

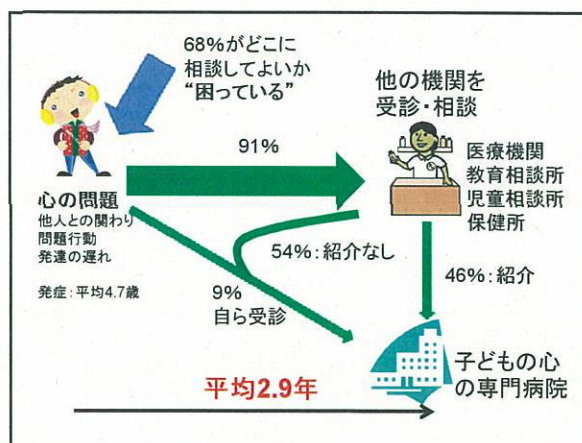
背景

- 自閉症スペクトラム障害(ASD)は早期診断が重要。
- そのためには、症状に気付いてからより短い期間のうちに子どものこころの専門病院を受診することが望ましい。
- どんな要因がその期間に影響しているのだろうか？

方法

- 平成20年9月から平成21年2月までの間に受診した初診・再診(再診は9月のみ)の患者に、診察を担当した医師から研究への参加を依頼し、参加を募った。
- 全参加者は4323名(回答率34%)。
- そのうち、患者による「医師の診断名」についての報告が自閉症、自閉症スペクトラム障害、広汎性発達障害、アスペルガー症候群であった参加者のみ対象とした(N=1513)。

結果



症状に気付いてから専門病院受
診までの時間と関連する項目
(ordered logistic regression)

- 年齢(小さいほど長い)
- 父親と同居(するほど短い)
- 年上のきょうだいとの同居(するほど短い)
- 年下のきょうだいとの同居(するほど長い)
- 発達の遅れ(あるほど短い)
- 他人との関わりの問題(あるほど長い)
- 不登校(あるほど長い)
- 相談困難感(あるほど長い)
- 他機関を通じて、とくに紹介なしで長い(最も高いオッズ比)
- 予約の待ち時間が長い(ほど長い)

症状に気付いてから専門病院受
診までの時間と関連しない項目
(ordered logistic regression)

- 性別
- 母親・父親の学歴
- 年収
- 母、祖父母との同居
- ASDの家族歴
- こたわり、行動の問題
- 生活困難度

結論

- ASDの場合、受診までの経緯として、症状に気付いたときにどこに相談してよいかわからず、近くの医療機関等に相談したが納得せず、紹介なしで専門病院を受診している場合に受診までの期間が長くなっていることが分かった。
- どのような症状の場合に専門機関を受診するよう紹介すべきか、についてのガイドラインを作成し周知する必要がある。
- また、ASDの早期の気づきはまだ低い可能性がある。健診等での早期発見の取り組みが必要。